

セ試日程“6日繰り下がり”の影響に注意！ 一般入試でセ試本試験日前の出願締め切りが急増

旺文社 教育情報センター 平成17年11月9日

平成18年は、センター試験（以下、セ試と略）の本試験日が17年より6日繰り下がり、国公立大2次出願の締切日も5日繰り下がった。この日程変更は、国公立大志望者が私立大を併願する場合、微妙に合否にも影響する。ここでは、セ試等の日程繰り下がりが、私立大の入試日程に与える影響とその対策について検証する。

セ試の本試験は毎年、1月第3土曜とそれに続く日曜に実施されるため、18年は暦の関係で「1/15・16 1/21・22（17年 18年。以下同じ）」と遅くなり、国公立大2次試験の出願締切日も「2/2 2/7」と遅くなった（次ページの図を参照）。この“日程繰り下がり”は、私立大の入試日程に次のような影響を与えた。

一般入試（2月）の出願締切日が、セ試本試験日の後から前に繰り上がる（事後出願・事前出願）大学が続出した。おもな大学（日程・方式）は、東北学院大（前期）、国際医療福祉大（前期）、金沢工大（前期）、愛知大（M方式）、中京大（前期）、京都産業大（B・A・C方式）、同志社大（一般）、関西大（A・S日程）、関西学院大（F・A日程）、神戸女学院大（前期）、武庫川女大（一般B）、広島修道大（前期）、福岡大（一般・前期）、など。

一般入試（2月）の試験日が、国公立大2次の出願期間と重複する大学・学部が、関西地区を中心に増えた。

「セ試利用入試」については、ここ数年、セ試本試験日前の締め切り（事前出願）が全体的に増えてきたが、こうした大学では締切日を繰り下げても「1/14 1/20」など、引き続き本試験日前のケースが多く、一般入試に比べて日程変動の影響は小さい。ただし、神奈川大（セ試前期）、同志社大 - 商・政策・工（セ試）、近畿大（C方式前期）、福岡大（セ試）の出願締切日が、本試験日の後から前に繰り上がるので、注意が必要だ。

[注意点] 前述のような私立大を志望する国公立大併願者にとって、物理的にも精神的にも大きな負担となる。

(1) 出願段階でセ試の自己採点結果を参考にできず、学力の最終チェックをしない出願となる。受験生は不安感から早めの出願に踏み切るため、特にセ試利用の場合、高倍率の激戦となる傾向にある。一方で、セ試の準備に追われ、私立大「出願忘れ」の危険もある。

(2) 一般入試（2月）の受験を、国公立大2次試験の出願と並行して行わざるを得ない。特にセ試が不調に終わった場合、精神的に立ち直る間もなく、国公立大の出願に気を取られ、試験に集中できない恐れがある。

[対策] このため、国公立・私立いずれも、早め（できれば年内）に自分の学力を的確に

見定めた志望校選定が求められる。その際、出願時の行動プログラムをいくつか想定しておき、セ試の出来具合に振り回されず迅速に対応することが大切だ。また、セ試の後、いかに早く私立大受験へ意識を切り替えるかも重要になる。一方、セ試に気を取られず私立大入試に集中できる点は、私立大専願者の方が国公立大併願者より有利といえる。

[志願動向予測] この“ 日程繰り下がり ” は 5 年前の 13 年入試でも起こり、「事後出願 事前出願」となる大学が続出し、同志社大(8%増)・関西大(8%増)・関西学院大(10%増)などで志願者大幅増となった。18 年入試でも同様の結果が予想されるが、セ試の平均点がダウンした場合は、安全志向から併願を増やすため、事後出願できる大学への「駆け込み出願」も考えられる。ちなみに一般入試(2月)では、國學院大(1/21 1/30)、愛知大(前期:1/21 1/23)、甲南大(1/21 1/23)、西南学院大(1/18 1/24)などが「事後出願」になるよう出願締切日を遅らせており、要注意だ。

* * *

なお、『螢雪時代 12 月号』中「大学進学 INFORMATION」の p.200 ~ p.202 に、国公立大との併願が多いおもな私立大を選び、一般入試(2月)の出願締切日(郵送)とセ試本試験日の関連、試験日と国公立大2次の出願期間の関連について日程順に掲載したので、ご覧ください。

